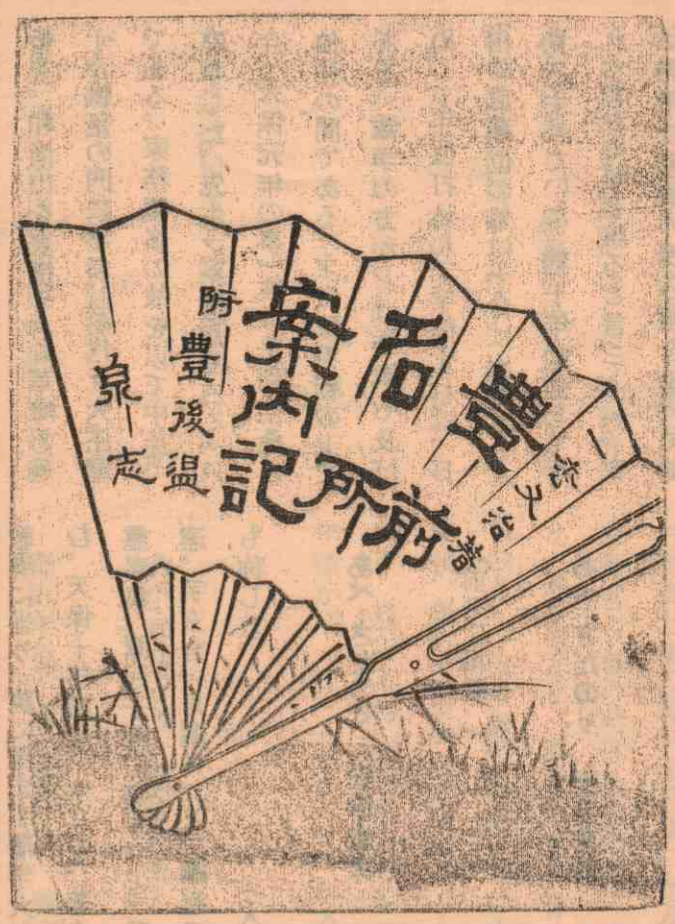
宇佐市民図書館　2003.02

郷土スペース月報

〒879-0453　大分県宇佐市上田1017-1　TEL.0978-33-4600　FAX.0978-33-4679
http://www.usa-public-library.jp/

目　次

◆今月の表紙・『豊前名所案内記』（表紙）　1
◆「第一章　宇佐郡」より（『豊前名所案内記』）　2
◆龍膽・小野精一編「大分県人名辞典」本文編（8）　4
◆新着郷土資料目録・平成十四（二〇〇二）年【12月】



今月の表紙　『豊前名所案内記』一松又治著（梅津豊文堂）。明治31年3月17日発行。14×10・5㎝。章立ては「宇佐郡」「下毛郡」「築上郡」「田川郡」「京都郡」「企救郡」で、巻末に「豊後温泉志」を付す。「第一章　宇佐郡」には、「宇佐八幡」「御許山」「一柱騰宮」「鷹巣」「舟木山」「椎谷瀑布」「穴居遺跡」「善光寺」「清水寺」「孝女市墓」が取りあげられている。

第一章　宇佐郡

神武天皇紀云、行至筑紫国菟狭、時有菟佐国造祖号曰菟佐津彦菟佐津媛、乃於菟佐川上、造一柱騰宮、而奉饗焉、てふ菟佐は即今の宇佐の地にして菟佐川は今の駅館川なり柳（ママ）宇佐の地は神代より国史に顕はれたる古跡にして世に紹介すべき名所極めて多し東南は国東、速見、玖珠の諸郡に接し西は一帯下毛郡に連なり北は茫々たる周防灘に面す而して駅館川は郡の中央を北流して長洲の浦に注ぐ旧宇佐八幡宮の古趾たる鷹居瀬社及び一柱騰宮等の古跡皆この川の両岸にあり

『豊前名所案内記』より

龍膽・小野精一編

大分県人名辞典

本文編（9）

遺族から宇佐市に寄託された自筆原稿より、本文を順次紹介しています。

収録人名一覧は、No.7(2000.10)～No.14(2002.5)に連載しました。

あべ

あべ・かしょう　安部華嶂

拝田村の人。拝田宗太夫の子。名哲三。和尚山を表徴すべく華嶂と号す。帆足の門に学ぶ。家代々大庄屋である。家務繁多の故を以て中途で廃学した。先生之を惜んで曰く「只今（天保元年の事）彼は毛利空桑と伯仲の間である。才気は毛利の上である。数学の方などは季風も及ばぬ。一年位打込んで学問すれば、日田の広瀬位の処は十分に出来る」と見込まれていた。猶十年勉強してくれ、おれの跡を譲ると言っていた。家に帰えり家業の傍ら帷を垂れて徒弟を指導した。大井憲太郎、南省吾、安部耕雲など、皆、其の薫陶を受けている。没年不詳。宗太を養子とす。

あべ・げんたつ　阿部玄達

儒臣。本姓、井上。武蔵の人。好繁の門人。岡藩命を以て好繁の後を襲ぐ。即ち藩の侍医となり、又子弟教導に当り、諒に倦まず藩学大に進む。天保十年歿す。年八十、著多く霊素集、鷹起子経伝等ありと。諱玄達。字玄令。号漏声、又、鷹起子とも称した。（大塚）

あべ・さだつぐ　安倍貞次

（前号に掲載。）

あべ・さだのり　安倍貞則

（前号に掲載。）

あべ・しめきち　阿部七五三吉

明治七年生。神島鉄三郎弟。後ち阿部貞吉の養子となる。同三十四年、東京高師手工専修科卒業。同校助教授。手工科に関する著書多し。

あべ・せいくう　阿部誠空

僧侶。宇佐郡乙女村善右衛門次男に生る。名喜助。自ら進んで中津浄土宗郷願寺で剃髪した。それが京都石原西光寺の住職となり、更に美濃正龍寺に聘せられ、到る処で名声隆々。遂に浄土宗西山派の総本山栗生光明寺の管長躍進した。光明寺は山城乙訓村字栗生にあり。浄土宗六本山の唯一宗祖円光大師法然の墓もある。法然の弟子熊谷蓮生房墓も、其の念仏堂もある。四条天皇の勅旨を以て、光明寺と称することになった。其四十九世の法主であり、

准門跡様となった。教授の紫衣を賜わった。一匹夫の子光栄の極めである。孝明天皇の拝謁を賜わり、大樹将軍にも拝謁を許されたという。文化八年の生れ、歿年不詳。

（宇佐史談）

あべ・せきなん　阿部碩南

南大分の人。名貞次郎。若くして官途に仕え、掛冠後、専ら詩を嗜む。悠々老を養う。昭和中歿す。

あべ・たんさい　阿部淡齊

（一八一三～一九一〇）

府内藩文学。名正令。字子恭。六郎と称す。文化十年、府内に生る。父正名国学に長ず。淡齊幼にして竹内豊洲に学び、次で広瀬淡窓の門に学ぶ二年、藩主に従い江戸に至り、佐藤一齊に経義を講習す。天保十三年、府内藩文学に挙げらる。時に年三十、藩主大給近説、安政四年文武場を城内に設け、遊焉館と称す。淡齊之を賛け、万延元年、淡齊医学長を兼ね、遊焉館の城北に移すや淡齊、広瀬青村・島維精を教授に任じた。維新後、藩政に参じ、廃藩の後ちは専ら家塾の授業に従事したが、徒弟三百人に及んだ。明治十三年四月、六十有八歳を以て歿した。

（県偉人伝）

あべ・ばいしょ　阿部梅処

南画家。大分郡吉野村の人。本姓吉良。後ち府内阿部家を嗣ぐ。杏雨膝下の門人。壮年、全国を行脚し、一時、神戸地方にて名を成す。昭和十五年歿。八十余歳。名は元。通称宰正。号、初めは横岳、後、専ら梅処と号した。（大塚）

あべ・ぶんいん　阿部文寅

府内三彫刻家の一人。名忠道。号文寅。又、暘谷、曜谷の号がある。木村黙齊と洛の彫刻家昇齊に学ぶ。柞原神宮日暮の門は氏の彫刻に成ると。画を善くし、風景人物画存するもの多し。山水画の落款に明治十五年秋、暘谷入道文寅、時に七十八とあり。歿年不詳なれども明治二十年頃か。（大塚）

あべ・むねとう　安倍宗任

前九年役、宗任戦敗れ、義家に降り、豊後に来り、高崎山上に一城を築き、之に居り、山下に宝珠山龍雲寺を創立し、兄貞任の遺骨を埋め、寺傍に一庵を造り、母新羅の前を住ましめ、其地を白木村と呼んだ。白木は新羅の音を取りしものという。今も白木村に龍雲寺というがある。宝山院月心は貞任の御諡、珠林院中峰は宗任の法号、其宝珠は二つの御号の頭字を取って宝珠山龍雲寺というのである。其豊後に到着したの康平五年十二月といっている。両豊に於ける安倍、阿部と文字は変れども、皆安倍宗任に出づと（安倍宗任伝）。速見郡八坂郷加貫浦に巨石あり。安倍宗任豊後に下るの日、風波の厄を避けたので宗任倚憩石といって土人神に祭り、貴船社と称している（豊後国志）。宗任一旦松浦に退き、屡く彼地に亘り、後ち天仁元年豊後に帰えり、七十七歳で歿した。碩田叢書に坂井の梅源山貝福寺は宗任天喜元年の開基で、其後永久二年甲午三月、八十三歳で大往生を遂げた等の説もある（同前安倍宗任伝）。

新着郷土資料目録　平成１５（2003）年【1月】

書名／人名／出版社／出版年(月)／請求記号／(備考)

【点字資料】県議会おおいた　平成13年2月～平成14年11月(NO.41～48)
／大分県／2001～2002／雑誌／(寄贈)

【点字資料】みんなの県政　平成11年7月～平成15年1月(第137.～158号)
／大分県広報広聴課／1999～2003／雑誌／(寄贈)

【点字資料】宇佐神宮　〔由緒書〕／宇佐神宮／TA175ウ／(寄贈)

【点字資料】あなたの介護保健　あなたのあんしん／宇佐市／／TA369ウ／(寄贈)

【点字資料】大分県点字電話帳　平成13年2月／
NTT西日本大分支店／社会福祉法人大分県盲人会／TA694／(寄贈)

＊　＊　＊

大分県内専門機関案内／大分県立図書館／2000.3／A030オ／(寄贈)

河原田四ノ坪遺跡(河原田遺跡群Ⅰ)　河内南原遺跡
／豊前市教育委員会／2002.3／A200.2フ゛／(寄贈)

宇佐神宮　八幡様の総本宮　週刊神社紀行6／学習研究社／1985.7／A211ナ／(購入)

惣町大帳　第6輯／半田隆夫／中津藩史料刊行会／1985.7／A211ナ／(寄贈・三和文庫)

惣町大帳　寛政12年／阿部正信／中津惣町大帳刊行会／2002.2／A211ナ／(寄贈・三和文庫)

惣町大帳　寛政10年・同11年／竹本弘文／中津惣町大帳刊行会／2002.11／A211ナ／(寄贈・三和文庫)

惣町大帳　第14輯　[明和8年]／竹本弘文／中津惣町大帳刊行会／2003.2／A211ナ／(寄贈・三和文庫)

大分県　人物・人材情報リスト　2002／日外アソシエーツ／2002.1／A280.3ニ／(購入)

人権教育のための10年　宇佐市行動計画／宇佐市推進本部／A316シ゛／(寄贈)

県政重点事業要望書　平成11年度政府予算等に関する／大分県／1998.7／A317オ／(寄贈)

介護・育児休業、男女均等法等関係資料集／大分県経営者協会／1998.3／A366オ／(寄贈)

市町村福祉の現況〔平成10年度〕　平成9年度実績による／大分県／〔1998〕／A369オ／(寄贈)

血液に乾杯／足立和子／日本ヴェール健康学センター／2002.10／A492ア／(寄贈)

建築士おおいた　2003.1　No. 86／大分県建築士会／2003.1／A521オ／(寄贈)

豊前市の文化財　歴史と浪漫の散歩道／豊前市教育委員会／2002.10／A709フ゛／(寄贈)

大分県ゴルフ場ガイド　2003.1／日高慶彦／ホーゼル／2002.12／A781ホ／(購入)

桜田門外のライター　昭和ひとけたの少年期／大塚俊英／おおくま書店／2002.6／A913オ／(寄贈)

平和証言集　LOVE & PEACE／宇佐市立柳ヶ浦小学校6年生2001／2002／A916ヤ／(寄贈)